

北海道がM&Aに適する2つの理由

北海道は2つの理由から、M&Aビジネスに適している場所だと考えています。

1つ目の理由としては人口が減少し、市場が小さくなっているという事です。こうした状況の中では、道内だけで事業を行っている企業や、道内をメイン市場とする企業は売上げが上がりません。一方で、固定費はかかり続けるため利益は出ない。そこで、M&Aの手法で他の会社と統合し、コストを削減、収益を維持しようという動きが出

てくる訳です。M&Aというのは効率的経営を考えたときの1つの選択肢であり、特に北海道の場合は人口の減少スピードが全国と比べても速いので、逸早くコスト削減をする意味でもM&Aに向いている地域ではないでしょうか。

加えて北海道は、本州に比べ市場が小さいので新たに起業するのが難しい地域とも言えます。今後、市場が拡大されるなどの改善は考えにくいので、本州からの進出もあまり期待できません。競争状況という意味では、他地域で起業するよりも相手が少ないということがいえます。

小樽商科大学ビジネススクール 准教授 保田 隆明

1974年生まれ。98年早稲田大学商学部卒業。同年リーマン・ブラザーズ証券会社東京支店投資銀行本部勤務。01年ニューヨーク本社投資銀行本部 M&A グループ。02年 UBS 証券会社東京支店投資銀行本部。04年 Life On (株)代表取締役(ネットベンチャー)。05年ネットエイジキャピタルパートナーズ執行役員(投資ファンド)。06年(株)オフィスワーク代表取締役(財務コンサルタント)。09年金融庁金融研究センター専門研究員。10年小樽商科大学大学院准教授。現在に至る。早稲田大学大学院ファイナンス研究科修士

最近、餃子の王将やリンガーハットといった本州の外食チェーンが道内に上陸しました。ただこれは本州に市場が無くなり、今以上に成長の余地が見込めないということから、北海道が最後の進出場所になったということでしょう。

北海道がM&Aに適した地域である2つ目の理由は、本州と比べ競争が厳しくないという市場環境から、力のある企業がM&Aで地盤を固めるということができやすい。これにより確固たる地盤を築いた場合は、北海道を飛び出しさらに思い切った拡大戦略に乗り出すことができるといふ点です。アークスの戦略がまさにそれと言えます。

縮小する市場で、ある程度のシェアを占めるとその後どうなるのかを考えた場合、横ばいか、未開拓地域進出か、新事業を始めるか、のいずれかの選択肢が出てきます。アークスの場合は本州という未開拓地域進出を選んだ訳です。本州における競争

思い切った拡大戦略とれる最も適しているのは「観光」

も厳しいことになりありませぬが、道内の市場を掌握しているの上を目指しやすいのです。

この一連の流れは、JTと同じ性質をもっています。たばこにおけるJTの国内のシェアは群を抜いており、独占状態です。国内で競争する相手がいない状況が続けば、国内に踏み止まることで利益を出し続けられるでしょう。このままの状況を維持することも大切ですが、国内市場が縮小していく以上、JTも

海外に出なければならぬ。国内で安定的に利益を出しつつ進出を図る訳です。アークスの場合も道内が安泰となり、そのバックボーンがあつてこそその進出でしょう。

着実に増えている事業継承の需要

現状のM&Aビジネスについて見ると、代表的なビジネスチャンスと言えるのが事業継承です。北海道に限らず後継者不足

の問題は国内どの地域、どの業界でも深刻です。最終的には後を任せる人が不在であるため会社を売却する。そういった事例は中小零細企業に多いといえるでしょう。

現代社会においてM&Aは加速しています。正確には現在実践してはなくても「やりたい」と考えている人は増えているということ。日本全国でみた場合、案件数は過去最高の伸びを見せていますからね。大規模な案件は減っていますが、目立たない小さい案件はかなり増えています。これは北海道も例外ではありません。

これからの北海道においてM&Aが一番適している業種は「観光業」と考えます。「観光」という産業で考えた場合、北海道はまだ開拓の余地があり、観光客を呼び込むことができる。そういう意味では北海道における数少ない成長市場でしょう。道内各地にいろいろな宿泊施設がありますが、老朽化が進ん

でいます。その反面、立地は良いわけです。施設改装などで、より現代人にあう形に変えるべきなのですが、ただそれを実践する企業体力がありません。そこで、M&Aのビジネスチャンスが生まれるのです。M&Aは、お金さえ積めば買収が可能で、売る側は安くさえすれば売れるのです。ただ問題は最後の経営統合の作業。二つの文化の異なる企業をつなげる。作業は生半可なものではありません。経営を効率化するためには確立しなければならず、企業ブランドやイメージも守らなければならぬのです。

理想的な形として私が考えるのは、観光のみならず、広い意味でリゾートとエンターテイメントを組み合わせる事です。また、オール北海道のためなら「どんなことでもできる」というマインドセットが道民にはあると思います。この非常に大きい強みを活かせば道内企業はまだ成長すると思います。

